

豊橋市におけるフォローアップシステムの現状、および職域への介入

研究分担者：石上 雅敏 名古屋大学医学部附属病院・消化器内科・講師

研究要旨：慢性ウイルス肝炎の治療の進歩により多くの患者で病勢のコントロールが可能となっていており、特にC型肝炎においては比較的安全、かつ短期間の治療で95%以上の患者においてウイルス排除が達成できるようになってきた。平成22年度より健康増進法に基づく住民健診における肝炎ウイルス検査(HBs抗原、HCV抗体)が開始された。それに伴い、我々は平成23年度より地方自治体(保健所設置市)における効率よい受診勧奨システム構築についての研究に参加、「受検者に対するアンケートによる受診勧奨」を行ってきた。その際に問題として浮き彫りになったのが、若年、特に男性でのアンケート回収率の悪さであり、これらの年齢層における受検、受診勧奨の難しさを実感した。これらの年齢層においてはいわゆる「職域」に属す群と考えられ、「忙しくて検査、診察に行っているヒマがない」という理由から全国的にも掘り起こし、受診勧奨が難しい群となってきた。今年度は豊橋市におけるフォローアップシステムについて厚生労働省フォローアップシステムに乗った平成27年度以降の陽性者フォローアップの現状、昨年度から開始している妊婦健診の状況、また職域への介入法として自治体のフォローアップシステムを活用した方法を検討する。

A. 研究目的

平成23年度より本研究班の分担研究者として、愛知県豊橋市保健所の協力を得て、地方自治体単位での効率的な肝炎ウイルス健診陽性者に対する効率的なフォローアップシステム構築を検討してきた。平成25年度にアンケートを行った際にアンケート回収率が全体の39.3%(24/61)と低率であり、特に男性(28.0%)および40代以下の女性(25.0%)で低率であり、若年層における問題意識の低さが浮き彫りになっている。

今年度は研究初年度として現在の国におけるフォローアップシステム運用の現況と、今回の研究班におけるメインテーマである「職域」を含めたフォローアップシステムの構築について自治体をからめたシステムの提案をしてみたい。

B. 研究方法

今年度も豊橋市保健所の協力を得て、以下の3つの目標を設定した。豊橋市における平成27年度における厚生労働省からのフォローアップ事業開始時からの陽性判明者におけるフォローアップの現状、自治体フォローアップシステムを活用した職域における受検、受診勧奨の提言、を行ってみたいこととした。

(倫理面への配慮)

陽性者の個人情報豊橋市保健所で一括管理とし、我々には完全匿名化したデータのみ送付されるようにした。

C. 研究結果

今年度でのフォローアップの現況は健康増進課(健康増進法に基づく節目健診担当部署)において判明した平成27,28年度の陽性者12名のうち、6名の受検者、また健康対

策課(特定保健法に基づく希望者健診の担当部署)では10名中9名で現状が把握できていることが判明した。上記16名の陽性者のうち、6名が治療につながっており、また4名が無治療も経過観察中であり、現況のフォローアップシステムが豊橋市では有効に働いていると考えられた。反面、平成28年度における豊橋市の陽性判明者は827名中0名であったこと、また平成29年度においては健診対象者5296名中受検者が755名(14.3%)であることも明らかになってきており、近年のウイルス性肝炎治療の進歩による陽性者減少傾向の可能性と、受検率についてはまだまだ十分でないことが明らかとなった。

D. 考察

平成27年度から開始された国の事業としての陽性者フォローアップ事業は豊橋市では比較的うまく運用されていることが判明した。この点については、豊橋市が人口37万人という中規模都市であり、陽性者もまだ多くはなく比較的現状把握が容易ではあることが挙げられ、人口100万を超える大都市圏とは少し様相が違う可能性は考えられる。

また、今ひとつの問題が受検率が20%に満たないという所にある。以前から行っているアンケート調査からもいわゆる「働き盛り」世代の意識の低さが浮き彫りとなっており、本研究班におけるメインテーマの一つである「職域」への介入は重要であると考えられる。

職域については、すでに当研究班で「無料、ついで」の受検率向上への効果が報告されている。健康増進法に基づく節目健診

における肝炎ウイルス検査という枠組をせっかく国として準備しているわけで、これを職域に活用することで、自治体健診率の向上、普段は健診、受診へのハードルが高い職域の受検者にも気軽に受けってもらう、現在多くの職域において行われている費用負担が軽減される、職域が嫌がる個人情報の管理を一括して自治体に任せることができ、フォローアップも自動的にシステムに乗せることができる、等の利点がある(別紙資料参照)。

ただ、改善すべき問題点としては自治体、職域の2つが関わるためやや複雑なシステムになること、職域における受検者リスト作成の手間、職域の場合は他の自治体からの通勤者もいるため周辺自治体住民への適用をどうするか、等がある。ただこれが全国的に展開できれば自治体をまたぐ住民の問題は解決するのではないかと考える。今後はまず愛知県等とも協力して、可能であればまず豊橋市にてこのシステムを研究年度内に試験的に動かして見られないかを検討してみたいと考えている。

E. 結論

豊橋市における肝炎ウイルス検査フォローアップの現状についてまとめてみた。現在の厚生労働省のフォローアップシステムは豊橋市においては概ね順調に動いていることがわかった。妊婦健診については、効率も良いことがわかっているため来年度もアンケート調査を行う予定で、その状況を報告することで現在これらの陽性者に対して枠組の存在しないフォローアップのシステム構築について提言していきたい。

また、職域についても自治体のフォローアップを活用すればまた新たなシステムになり得ると考えられ、今後も提言、また試験的な運用も行っていきたいと考える。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし